



法要には160名以上が参拝した

阪神・淡路大震災物故者総追悼法要修行 ～これからの時代に「いのち」を守る枠組みを～



第47号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

Tel: 078-341-5949



憲法理論を語る木村氏

1月17日(火)本願寺神戸別院にて「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」が勤められました。

6500人以上の尊い人命が奪われた「阪神・淡路大震災」から今年で22年目となりました。

今年は、午後1時より杉本正信神戸別院輪番より挨拶があり、その後つどいとして、宗門関係学校の協力のもと「いのち」をテーマとした作文の朗読が行われました。作文朗読者は、井藤菜ノ花さん(睦学園神戸国際中学校)、山本一輝さん(成徳学園神戸龍谷中学校)、黒岩実花さん(睦学園兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校)、山田桃子さん(成徳学園神戸龍谷高等学校)の4名でした。

その後、午後1時半に行事鐘が鳴り響き僧侶の入堂により法要が始まり、正信偈のお勤めの中、参拝者全員のお焼香が行われました。

私の「いのち」を守るための憲法

法要終了後、午後2時半からは、17いのちを考える研修会が引き続き開催されました。講演には、憲法学者であり、テレビ朝日系列『報道ステーション』のコメンテーターなど、多数のメディアに出演されている木村草太氏をお迎えしました。講題は、『国民の命を守る憲法と立憲主義』でした。

木村氏は、憲法は国家権力の暴走を止める役割を持った重要な法律だと存在意義を説明されました。

憲法というのは国家権力の失敗を繰り返さない、そういう目的があります。そして国家権力の三重大敗として、『無謀な戦争』・『人権侵害』・『独裁』があり、『軍事力のコントロール』・『基本的人権の保障』・『権力分立』が必要であると話されました。

つまり、憲法が国家権力に制約を課し、その暴走を防ぐことによって、私たちの「いのち」を守る権利が保障されているということです。

木村氏は、終始静かな口調で話されましたが、自分の体験も交えた微笑ましい内容には思わず会場に笑いが起こる場面も見られました。

およそ90分の講演が終わり、長尾真副輪番の挨拶、恩徳讃が唱和され閉会式が閉じられました。

報恩講法要勤まる

親鸞聖人のご苦勞に感謝して

昨年11月26日(土)から28日(月)にかけて計6座、当別院の報恩講法要が勤められました。ご講師に岐阜教区西本寺住職、ビハール本願寺施設長の岩間行則師をお迎えし、阿弥陀さまのお心をお取次ぎいただきました。

報恩講法要は、親鸞聖人33回忌にあたる永仁2年(1294年)、親鸞聖人の曾孫である本願寺第3代覚如上人が『報恩講式(私記)』を作り法要の次第を定め聖人のご苦勞を偲ばれたことに始まり、報恩講と名付けられました。これより毎年、聖人のご命日を縁としてお勤めされ、720年以上脈々とお勤めされ続けてきた法要です。

この報恩講法要は、私たちがありのままの姿でお浄土へ生まれていく道を、聖人がその御生涯をかけて求め伝えてくださったご苦勞に感謝し、私たちにお伝えいただいた阿弥陀如来のお救いを喜ばせていただく、浄土真宗の教えを聞かせていただく私たちにとって一年で最も大切な法要です。

私たち其々に寄りそったはたらき

岩間師は話の中で、阿弥陀さまという仏さまのはたらきは、常に私たちに



岩間師の身近な表現が聞く人の心をつかんだ

向けられており、様々な状態にある私たち其々に応じてはたらいいてくださいます、と話されました。そして、そのはたらきを赤ちゃんが母親からもらう母乳に例えられました。生まれたばかりの赤ちゃんが飲むものは同じ母乳であつても含まれている成分は大きく違います。その時々赤ちゃんに最も適した中身で母親の体の中でつくられ赤ちゃんに与えられます。阿弥陀さまもこれと同じように私たちすべての者に向けてはたらいいてくださるので

す。

聖人のご恩に感謝しつつ、阿弥陀さまのはたらきを受けて、仏にならせていただく人生を歩ませていただいていることに改めて気付かされました。

仏教婦人会の接待も

中日にあたる11月27日(日)には、日中法要後に神戸別院の仏教婦人会によるお齋のご接待がございました。

献立はご命日にあわせのつべい汁と高菜、ごはんといった精進料理となりました。雨天のため寒い一日でしたが、しょうがの入ったとろみのあるのつべい汁は、体が温まって美味しい」と好評を博しました。前もって多めに250名分程度用意されましたが、次の連夜法要が始まる前に、全てなくなりました。

配膳の際には、別院の仏教壮年会の会員の方々にもお手伝いいただき、スムーズにお食事頂くことができました。

今後、よりいっそう多くの方々に「来てよかった」「また来たい」と思っていただけるようご縁づくりを行ってまいります。



お齋会場は大勢の参拝者でいっぱいとなった

花隈モダンタウン フェスティバル開催

神戸別院では、一人でも多くの方に浄土真宗のみ教えに出遇っていただくため、地域と連携し、開かれたお寺にすることを標榜しています。その一環として、27日(日)、本願寺神戸別院報恩講法要にあわせて、地域事業者や近隣の学校などと協力し、「花隈モダンタウンフェスティバル」を開催しました。

前庭では、屋台ストリートが開かれ、「Tea room CoCo」「鉄板・お好み焼きみんと」「ワインバーVigne」「ポルトパニーノ」「神戸パクチャー研究所花吉」「plus3 Marche MOTOMACHI」「神戸キーマカレー元町通3丁目」「神戸アジアン食堂バルSALA」の8店舗が軒を連ね、報恩講法要の参拝者が様々な地域の味に舌鼓を打ちました。

また、花隈歴史写真展示では、地域の協力のもと、花隈町の貴重な芸妓町時代の写真が展示されました。

地域マップ展示では、神戸市立山の手小学校の児童たちが、自分たちの視点での「ええところ」をマップまとめた地域マップが展示され、花隈の魅力が紹介されました。

ハザードマップ展示は、神戸山手大学の学生たちが、神戸に暮らす外国人にもわかりやすいよう、多言語のハザードマップを作り、地域の防災意識を高める意義深い展示となりました。

神戸別院仏教壮年会 公開講座を開催

1月29日(日)、本願寺神戸別院仏教

壮年会主催の公開講座が開催されました。講師は、多くの書籍を出版しておられNHKや夕方のニュース番組『アンカー』に出演されておられる、相愛大学教授、釈徹宗師でした。

当日は、14時開始(13時30分開場)ながらも、13時過ぎから人の姿が見られ、当初設置した席数では足りなくなるなど、講師である釈先生の人気が窺える講座となりました。始まる直前には、満堂になり、推計170名を超える人々がお聴聞に訪れました。

会場では、釈先生の書籍販売コーナーが設置され、ご懇志を進納された方には、神戸別院のポストカードが配布されました。

開会の挨拶では、別院仏教壮年會會長、岸田昭弘氏が「本日は、ご参拝いただき、ありがとうございます。本当にみなさんとお聴聞できてうれしいです」と語り、様々な団体の枠を超えて、集まった方々に感謝の気持ちを述べられました。

次いで、山内理史副輪番は、今から十数年前、自ら発起人の一人となって神戸別院仏教壮年会を作った当時の思いを語り、「今後も神戸別院仏教壮年会へより一層のご協力をお願いします」と、呼びかけられました。

その後、釈先生に15時30分までご講

演をいただきました。



落語の解説を交えながら話される釈師

仏さまは唯一私を

否定しない存在

人間関係の悩みの中でも、よく目につくものに、自己評価と他者評価のズレというものがあります。自分のことを他人からすぐく下に見られても、すぐく大きく見られても苦しいわけです。しかしそもそも、自己イメージと他者評価がずつと一致することはありえませんが、我々はこの苦しみを抱えて生きていかなければなりません。

そこで私とあなたの関係だけじゃなく、ここに仏さまと私という扉が開くと、たぶんこの世界はずいぶん変わってくるだろうと思います。というのも、仏さまというのは絶対に私を否定しないんです。常にありのままで「おかえり」と迎えてくださいます。私中心に見ている世界が、仏さまを通し見るといふことになれば世界の姿が変わってくる

んだらうと思います。

我々は自分で行為している、行動しているという風に思いがちですけれども、仏教だと、ご縁によつて動いているのだと思います。これだけでもずいぶん、ものの見方がひっくり返ると思います。これを科学的に研究するものに、「アフォーダンス」という理論があります。人間中心に見ずに、環境から人間を見るという取り組みです。我々の都市計画にも活用されています。新しい駅周辺などに行くと、花壇のふちが座りやすい高さになっていたり、座りやすい幅になっていたりします。だからなんとなく皆さんも腰を下ろしているんですが、材質が固いので長くは座れないようになっていきます。これもある程度計算されて私たちが動かされているという例です。

三つの心が仏様との扉を開く

仏教には「三心」という教えがあります。これは我々が仏様との扉を開く上で、目指すべき心持ちの方向を示すものです。

「淳心」とは、仏法を求める淳い心のことです。常に仏法を聞かせていただくと思つて暮らすことが重要です。皆さんがよくご存じの『仏説阿弥陀經』というお経には、「吹く風の音も、鳥のさえずりも仏法を説く」と出てきます。いつも仏法を求める心があれば、鳥のさえずりが仏法を説くことも起こってくると思います。

「二心」とは、定まった心のことをいいます。宗教では、その道を歩む人にとつて大切なものであつても、関わっていない人には全くどうでもいいということが、往々にして起こります。自分が大切にするものを否定されることもあるわけですが、それに迷うのではなく、「二心」とは、私がこの道を歩むうえで大切なものはこれですという態度を作っていくということです。

3番目の「相続心」というのは、途切れずつながっていく心のことです。

浄土真宗の教えでは、我々はいくら教えをいただいても何一つ変わらない、煩惱を持った人間だとしばしば強調されます。もちろん、煩惱や自分の都合がなくなるわけではないですが、み教えをいただくと、物事を受け入れられるようになったり、自分の進むべき道が金剛になっていたり、それが相続の姿として現れてくるんだらうと思います。たとえば、口にお念仏をかける、御恩報謝の生活を送る、というのも相続の姿の一つ姿になってくると思います。お念仏の教えをいただいて、息を引き取ればお浄土に還るといふ日々を送らせていただく方は、また違った生活ぶりになるではないでしょうか。

(以上編者抜粋)

講演後の閉会の挨拶では、別院仏教幹事の谷口一夫氏が、「先生のお話を指針として、今後日々の自らの在り方について心がけてまいりたいと思います」と述べました。

本願寺神戸別院（モダン寺） 伝灯奉告法要参拝団募集のお知らせ

京都の本山本願寺では、第25代専如ご門主様に、浄土真宗のみ教えが伝えられたことを奉告・披露する『第二十五代専如門主 伝灯奉告法要』が昨年10月から勤められています。伝灯奉告法要は36年ぶりの貴重なご勝縁となります。ご家族、ご親戚、ご友人、お誘いあわせのうえ、本願寺にそろってお参りいたしましょう。

記

- ◆日 時：平成29年(2017年)5月1日(月)9:00～
- ◆集 合：神戸別院1階
- ◆行 程：神戸別院からバスにて本願寺にお参りします。到着後、龍谷ミュージアムの見学と書院拝観に別れ、本願寺隣接の聞法会館にて昼食をいただきます。14時からの伝灯奉告法要に参拝し、18時頃には神戸別院で解散する予定です。
- ◆参加費：5,000円
- ◆定 員：40名(申し込み状況により枠を拡大します)
- ◆申 込：所定の申込書にてお申込みいただきます。まずは神戸別院までお電話ください。
本願寺神戸別院 〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1-1
電話 078-341-5949 FAX 078-341-8526
- ◆申込期限：4月21日(金)まで

春季のお彼岸のご案内

本年も春のお彼岸がやってまいります。神戸別院が定める彼岸参り期間は、春分の日を挟んだ一週間、3月17日(金)から23日(木)までです。前もって葉書にて、ご自宅にお参りする日程をお知らせいたします。週間前になってもご案内が届かない場合、日程に折り合いがつかない場合は、お手数ですが神戸別院(078-341-5949)までお電話ください。

春季彼岸会の法要につきましては、3月19日(日)から3月21日(火)の3日間、13時30分から、講師に石川県より谷間徹誠師をお迎えして勤められます。本年も、本願寺神戸別院仏教婦人会の皆様による、牡丹餅のご接待を、中日の3月20日(月)に予定しています。ぜひお聴聞いただき、お下がりとしてお持ち帰りください。なお、3月20日の法要には、納骨者総追悼法要が併修されます。神戸別院納骨所に納骨しておられる方も、お誘いあわせのうえご参拝ください。

納骨所読経を希望される場合は、前日までにお電話にてご連絡をいただくとよりスムーズにご案内できます。ぜひご活用ください。法要時間中(3日間、13時30分から15時30分まで)は、お受けできませんのでご了承ください。

法座案内

3月【第三土曜仏教講座】

▽4日 山本成樹師(あそかビハール病院
ビハール僧) 昼1時30分

【仏婦定例法座(布教団若手布教使
研修会と併修)】

▽7日 多田満之師(赤穂)、谷川弘淳
師(神戸)、藤本智彰師(加西)、西田
智教師(小野) 昼1時30分

【常例法座】

▽15・16日 西田智教師(小野) 昼1
時30分

【土曜講座】

▽18日 佐々木教子(別院職員) 昼1
時30分

4月【第三土曜仏教講座】

▽1日 青木龍也師(カナダ開教区総長
昼1時30分

【仏婦定例法座】

▽7日 黒田真隆師(実栗) 昼1時30分

【常例法座】

▽15・16日 帆保真澄師(朝来) 昼1
時30分

5月【第三土曜仏教講座】

▽6日 本多龍典師(出石) 昼1時30分

【仏婦定例法座】

▽7日 網干善二郎師(高砂) 昼1時30分

【常例法座】

▽15・16日 松田義量師(相生) 昼1
時30分

※4月・5月は土曜講座開催日未定